

ペルー 今シーズン8千万箱のブドウを輸出する可能性

[FreshPlaza](#) 2025年1月24日

第3週までのデータによると、ペルーは今シーズン(2024年10月~)これまでに6,400万箱のブドウを輸出し、これは2023-24年度シーズンの総出荷量に匹敵する。今シーズンは、イカ地方でまだ出荷の最盛期が3週間残っており、その後約10週間にわたって出荷量が減少するため、すべての状況が予測出荷量の7,800万箱が達成されることを示唆している。輸出業者サフコペルー社のディレクターであるベンハミン・シジョニス氏は、生産量は8千万箱に達する可能性さえあると述べている。(以下「」は同氏の話)

今シーズンの最大の懸念は、コンテナの不足とカヤオ港の操業の破綻である。「もし昨年、ピスコ港に投資していなかったら、大変なことになっていただろう。ピスコ港とチャンカイ港をさらに発展させることによって、カヤオ港の混雑解消に引き続き取り組まなければならない。」

2024年にピスコ港からバラ積み船による米国への直接輸送が開始されたことは注目に値する展開であった。これは重要なステップであるが、この方法では、今シーズンに発生した問題を回避するために、より多くの計画と協力が必要であるとシジョニス氏は述べている。「海運会社が輸入業者と交渉すればいいと考えているなら、それは誤解である。大規模な総合輸出業者がペルーの輸出の原動力である。彼らは必要な規模の果実を提供し、冷蔵倉庫、輸送、検査などの物流上の課題を管理するための専門知識を持っている。」

輸出業者はコンテナ船の航路にピスコ港を含めさせ、彼らはまたバラ積み輸送の実行可能性と持続可能性も確保する。シジョニス氏は、コンテナへの依存度や物流チェーンでのストライキなどのリスクを減らすためには、バルク輸送が不可欠であると強調した。

出典: [agraria.pe](#)

マレーシア 旧正月を前にマンダリンの残留農薬を検査

[FreshPlaza](#) 2025年1月27日

マレーシア保健省(MOH)は、祝祭日シーズンに輸入されるマンダリンが1985年食品規制と1983年食品法に適合していることを確保するため、昨年11月以降、70カ所のすべての輸入通関地点で監視を開始した。マレーシアの食品安全情報システムによって特定されたところによれば、マレーシアへのマンダリンオレンジの主要な輸出国は、中国、南アフリカ、日本、オーストラリア、エジプト等である。

分析された243のオレンジサンプルのうち、9件、すなわち3.7%が許容される最大農薬残留レベルを満たさず、廃棄された。不適合であった貨物の輸入業者は、その後の貨物に対してレベル5の検査を受けることになり、貨物はサンプリングのために留め置かれ、満足のいく分析結果が得られた場合に解放される。

MOHは、消費者の健康を保護するために、輸入通関地点と国内市場での継続的な監視への取り組みを強調し、すべての輸入業者による食品安全規制の遵守の重要性を強調している。これと並行して、1983年食品法に基づく食品の安全性確保を目的とした全国的な活動が、旧正月に合わせて1月19日に開始され、2月1日まで実施される予定である。

出典: [Bernama](#)